

トツプの素顔

vol. 6

清川メッキ工業株式会社
代表取締役社長

清川 肇氏

生まれ育った地で地球に貢献



【プロフィール】

昭和39年福井市生まれ。福井大学大学院卒業。平成元年富士通(株)入社。平成4年清川メッキ工業(株)入社。平成8年福井大学大学院博士課程修了。平成22年1月代表取締役社長に就任。福井商工会議所常議員、デジタル×イノベーション委員会委員長の他、福井経済同友会代表幹事、全国鍍金工業組合連合会副会長などの公職を務める。

【会社概要】

創業：昭和38年3月 所在地：福井市和田中1-414
電話：0776-23-2912 従業員：360名

普段、垣間見ることが出来ない福井商工会議所の議員の素顔を探る「トツプの素顔」。今回は清川メッキ工業(株)社長の清川肇氏にお話を伺いました。

多様なスポーツにチャレンジ

昭和39年福井市和田中地区の生まれ。小学校時代は近くの和田八幡宮や田んぼを遊び場に、タコ揚げや虫取り、ナマズ採りなど自然を相手にする活発な子供だった。

中学校は1学年が12クラス500名のマンモス校。所属したバスケットボール部は体育館での練習時間が限られ、余った時間は外周での走り込みに充てられた。1日7kmのランニングはスタミナづくりや走力強化に繋がり、校内マラソン大会では2位の快走で、県内の学校対抗マラソン大会のメンバーにも抜擢され、県7位に輝いた。

福井大学ではアメリカンフットボール部で汗を流した。アメフト競技は本来、攻撃と守備で出場メンバーが入れ替わるが、当時は部員数が15名と少な

く、1年時からレギュラーに抜擢され、試合開始から終了までフル出場ということも多かった。ここで、中学時代の走り込みが物を言う。攻撃側ではオフラインスライン、守備側ではディフェンスラインを担い、豊富なスタミナを生かした獅子奮迅の活躍で、1年時には北陸地区の5大学で構成されたリーグ戦で見事に優勝。自身もベストイレブンに選出された。

ところが、活躍の代償に身体のダメージが蓄積し、首と腰を痛めてドクターストップがかかった。激しいスポーツは厳禁となり、後ろ髪を引かれる思いで競技生活を引退。その後、社会人になってからはスキーやロードバイクにも挑戦。現在では週末にゴルフを楽しんでいる。

徐々に膨らむメッキ加工への想い

福井大学工学部4年間では電池技術を専攻。だが、大学院の研究テーマを決めるきっかけは父(清川忠氏)が経営していためっき工場だった。当時のめっきには銅とニッケルの合金を作る際に猛毒のシアン(青酸化合物)が用いられていた。そこで人体にも有害なシアンを使わずに合金めっきを施すめっき溶剤の研究をスタート。

しかし、めっきは温度が変わると流れる電気の抵抗値が変わる特性を持ち、自動車や電気製品など、温度変化が大きい分野への応用が難しかった。そこで、銅とニッケルの配合割合を変え、試行錯誤の上に温度に左右されない特殊めっき溶剤を開発し、修士論文で発表した。この研究を通してめっき技術への想いが深まっていった。就職先は、大きな関心を集めていた半導体の製造技術や、半導体製造に用いられる乾式めっきの技術を学ぶため富士通(株)を選択。3年間にわたる研究職勤務の中で多くの知識・ノウハウを蓄積し、いよいよ家業(めっき加工)を継ぐ覚悟が固まっていた。

仕事と学業を両立

清川メッキ工業に就職した当時、同社にはめっきに関する要望とともに、不良のクレームも寄せられていた。中には自社の加工工程ではなく、持ち込まれた加工前の素材に問題があり、不良が出るケースも少なくなかった。そこで、富士通で培った半導体開発の知識を活用するとともに、福井大学や福井県工業技術センターの協力を得て、不良の原因が加工工程なのか、持ち込まれた素材に有るのかをスピーディに

解析するノウハウを確立した。

素早い対応が取引先の信頼を高める一方で、その真摯な姿勢が福井大学の教授の目に止まり、博士課程(社会人コース)へのオファーが来た。大学時代の合金めっき研究で得たやりがいから、「自分を成長させるチャンス」と捉え、博士課程の門を叩いた。

3年間にわたり、睡眠時間を削って仕事と学業を両立し、フッ素を使った撥水めっきや電池技術の研究に没頭。当時は不可能とされていた100ミクロンの素材にめっきを施し、電池素材に活用する技術の開発に成功し、博士号を取得した。この経験が、現在では5ミクロンの素材にも加工できる同社のナノめっき技術へと繋がり、電子製品の小型化に大きく貢献している。

社員の繋がりが会社を元気に

「社員同士の繋がりが会社の元気の源」と話す清川氏。社員の触れ合いの場を提供したいと、アフター5の社員交流を積極的に支援し、社内では「よさこい」「ゴルフ」「マラソン」や「アニメ」「めっき実験」など多種多様な同好会が活動。職場結婚も多く、清川氏が社長に就任してからの5年間で、社員同士の結婚式に36回出席したエピソード



社内では「よさこい同好会」など多彩なサークルが活動している

ソードを披露し、「仲間が出来れば仕事もプライベートも充実する」と目を細める。

また、社員には定年まで元気に勤めあげてもらいたいと、健康経営の「ブライト500」に2023・2024の2年連続の認定を受け、社員の健康管理にも気を配っている。

360名の社員全員が福井県出身という同社。清川氏は「生まれ育った福井の地で、ナノめっき技術をコアに、時代に合わせた変化を遂げ、製品の小型化を通じて、地球環境に貢献していきたい」と力強く締め括ってくれた。